

脱軍備ネットワーク キャッチピース

5.29-30

第8回全国会議

Tokyo

5/29 (土) 自治体・民間動員をどう止めるか

—民間港湾・空港の軍事利用を中心に

●市民
フォーラム

午後1時半～8時半 (夕食休憩含む)

会場●東京港芝浦サービスセンター (22ページに案内)

5/30 (日) 午前9時～正午 キャッチピース全国会議

会場●佃島区民会館

参加費：通し参加 2000円 (宿泊費・食費等別)

市民フォーラムのみ 1000円

(参加費には遠方からの参加者への旅費カンパを含む)



プログラム

暫定的なものですので、今後変更の可能性がります。

5月29日(土)

<市民フォーラム>

周辺事態法案の自治体・民間 動員をどう止めるか

特に民間港湾・空港の軍事利用を中心に

会場：東京港芝浦サービスセンター（案内22ページ）

第一部：午後1：30-5：00

基調報告／国会報告／海運・航空労働者から
<各地からの報告>（紙上参加・調整中含む）小樽・函館・苫小牧・新潟・東京・横浜・横須賀・名古屋・舞鶴・神戸・大阪・呉・岩国・博多・佐世保・高知・別府・大分・湯布院・熊本・鹿児島・沖縄

●質疑討論

第二部：午後5：00-6：00

課題別提起：思いやり予算／地位協定／低空飛行

●質疑討論

午後6：00-7：00<夕食：各自>

第三部：午後7：00-8：30

討論「自治体・民間の戦争協力を止めるには…」

●質疑討論

●アピール採択

宿泊●東京海員会館（浜松町駅徒歩3分）

5月30日(日)

午前9：00-12：00

<キャッチピース全国会議>

●経過報告

●活動の反省と今後の方針

5月31日(月)

国会ないし政府へアピールを持っていく。

第8回全国会議のご案内

☆宿泊ご希望の方は5月14日までに事務局にご連絡ください。案泊まり3,000円前後（食費別）

事務局：TEL/FAX 045-433-3483又は田巻TEL/FAX045-531-1341

●今年、戦後の半世紀にとって、大きな展開点となる重要な年です。新ガイドライン＝戦争マニュアルの策定を前提として、戦時に対処するための体制を法的につくろうとするガイドライン関連の戦争法案が国会で成立されようとしています。その大きな柱である「日本周辺事態措置法案」は、地理的な概念ではなく、アメリカが世界のどこかで起こす戦争に、日本が全面的に関与することを確約するものです。米軍への支援の中には、自衛隊の後方地域支援だけでなく、民間港湾・空港の利用など自治体・民間への協力の要請や依頼が含まれています。

●そこで今年の全国会議は、戦争法案の成立に向けて審議が続いている首都・東京で開催することになりました。法案の成立の如何に関わらず、自治体・民間の戦争協力は、新ガイドライン体制にとって大きな柱であり、アキレス腱です。

●私たちは、昨春、民間港湾として米艦船を事実上閉め出してきた神戸に集まり知恵を出し合って作戦を立てました。そこで、提起した問題は、その後、高知県、函館市・苫小牧市、小樽市、石垣市などで具体的なテーマとなり、政府、自民党は躍起になってその動きをつぶそうとしています。私たちは、さらにこの問題の所在を明らかにし、具体的な形で迫っていくことが、ガイドライン体制の構築を許さないために極めて重要であると思います。今年も、その延長上での市民フォーラムを開催するに至った所以です。

●北海道から沖縄までの各地から東京に集まろうと願っています。また、港湾・空港の軍事利用だけでなく、周辺事態法案と自治体・民間との関係についてできるだけ総括的に捉える作業が今必要です。

●戦争マニュアルを何としても実働させないために、民間港湾・空港の戦争利用をはじめ、あらゆる戦争動員を許さない取り組みを全国各地の人々とともに考え、一歩踏みだしましょう。皆さんの参加をお待ちしています。

「殺す側」の

後方地域＝日本

周辺事態法案衆議院通過と

ユーゴ空爆を考える

田巻一彦（編集部）

よりもより踏み込んだ、自衛隊の任務拡大に道を開く内容になった。

「我々は、国益に奉仕することを要請されている。これは訓練ではない。訓練でつちかっていた力を実際の世界で行使する時だ」。四月二日、横須賀を母港にする空母キティホークの艦長は、グアムで中東への出動を命じられ、乗組員にこのように訓辞した。大規模演習を終えたばかりのキティホークの中東派遣は予定の行動ではなかった。本来ならば空母エンタープライズに替わって中東で「サザン・ウォッチ作戦」に就くはずであった

空母ルーズベルトがユーゴ空爆作戦に投入され、その穴を埋めるために急遽決定されたものだ。

「在日米軍」日本とその周辺の平和と安全を守るために配備されていると日本国民の多くが理解している軍隊が、実は、アメリカの国益が求めるならば世界のどこへでも、いつでも駆けつける部隊であることを、これほどはっきりと物語る行動はない。最近の「星条旗新聞」によれば、「同盟の力」と称されたユーゴ空爆で、米軍艦は巡航ミサイルトマホークをほとんど撃ちくしてしまっただという。太平洋に配備されたミサイルが、地中海にまわされるのだろうか。

NATO軍によるユーゴ空爆は、当初は軍事目標に対する攻撃と言われていたが、その対象は放送局や橋、鉄道、道路など社会・生活インフラ全体に拡大され、「戦略爆撃」の様相をあらわにしている。空爆エスカレーションの中で、鉄道や避難民の車列、民家などに対する「誤爆」があいついで発生、多数の市民の命を奪っている。戦車攻撃には湾岸戦争と同じ劣化ウラン弾が使用されている。何代にもわたる健康被害がユーゴ民衆に

四月二七日、衆議院本会議で、新ガイドライン関連法案＝周辺事態法案、自衛隊法改正案・ACSA改正案が自民・自由・公明の賛成で可決された。

三党の協議によって合意された修正内容は、①周辺事態の定義に「そのまま放置すれば、日本への直接武力攻撃に至る恐れのある事態」を例示として追加する（つまり「準日本有事」の規定）、②自衛隊の後方地域支援と後方地域での遭難者捜索救助活動を国会承認対象（原則事前、緊急時は事後）とする、③船舶検査は法案から削除し、今国会にも別の立法措置をとる、というものである。政府原案



朝鮮戦争 ベトナム戦争 湾岸戦争

私たちの隣にあった 「周辺事態」。 大切なことは 新たな「周辺事態」を 起こさないこと。 自治体はその砦です。

横須賀市長 沢田秀男様

「周辺事態法」は必要 という議会答弁を 撤回してください。



●自治体が「周辺事態法」による協力を認めずしてしまえば、米軍の活動を支える側になつてしまつて、すから、基地の勝手な使用の方に抗議したり、基地被害から市民を守ることは難しくなつてきます。厚木基地の騒音や、我儘せよとばかりなませよ。

そのときに



「NO!と言え、自治体を」
「周辺事態法は必要だ」「制裁がないからといって協力しなくていいわけではない」という、一連の沢田市長の発言の問題点は、ここにあります。

注) 日本国憲法は、前文で「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないように決意し」主権が国民にあることを宣言しました。政府が誤った道を歩もうとすると、それをただすのは、自治体であり、市民です。

残されるだろう。
これらの悲劇は最前線ではなく、「後方地域」でくりかえされている。「周辺事態法」は後方地域とは戦闘が行われておらずその可能性もない場所だという。だからそこで行われる自衛隊や民間による支援活動は、戦火から距離を置いた行為であると説明する。しかし、日本が協力している米国の軍隊そのものの行為がこの欺瞞を暴き出す。近代線においては、後方地域こそがもっとも悲惨で無差別的な破壊と殺りくの場となりうることを、NATOの空爆は実証している。

ユーゴの「後方」のかくのごとき惨状に比べ、NATO軍の後方地域はどうであらうか。ミサイルが頭上を運び、人々は逃げまとい、血を流しているだろうか。そんなことはない。ユーゴの反撃はそこまではとどかない。その代わりにミロシエビッチ政権は「民族浄化政策」をますます強め、コソボ民衆を迫害する。ちょうど、イラクのフセイン政権が、クルドの人々に対して繰り返して来ようように。

私は、「周辺事態法」とそれをめぐる論議の最も深い道徳的欺瞞がここにあり、と思う。日本が当事者として引き受けようとしている「後方地域」とは、あくまでもベオグラードではなく、NATO軍の後方地域なのである。さらに言えば、NATO軍がそうであるように、日米合同軍(新)「ガイドライン」が形作るうとしてるのはまさにそう呼ぶ他のない軍隊だに、対処しようとしている「周辺事態」とは、トマホークや艦載機によるスタンド・オフ(長距離)攻撃による、「ならずもの国家」の破壊もしくは打倒である。日本の後方では、自治体や民間人がかり出されることもあるだろう。しかし、そこには一発の弾丸もミサイルも飛んでこない。イラクやアフガンへの空爆のように。そしてその矛先が朝鮮半島北部に向けられようとしている。

これは、「戦争」と呼ぶ値打ちすらない、国際的「私刑」以外の何物でもない。「周辺事態」で私たちが立ち会おうのは、「殺す側の後方地域」だ。そう自覚することから、私たちの周辺事態法との戦いは始まる。「殺すな!」と何度も何度も叫びながら...

「海上警備行動」発令と 関連法案の早期成立発言に 抗議する!

1999.3.28 3月月例デモ参加者(28名)一同

「海上警備行動」の発令に抗議する

能登半島沖の「不審船」に対し、3月24日、午前0時50分、自衛隊発足以来初めての「海上警備行動」が発令されました。これにより、武器使用は海上保安庁の巡視艇の20ミリ機銃から、海上自衛隊艦船に装備されている最大の艦砲である5インチ砲での警告射撃と、対潜哨戒機P3Cによる150キロ爆弾の投下へとエスカレートしました。

国会では「周辺事態法」の審議が開始されています。自衛隊関係者ですら「あまりにもタイミングがよすぎる」という今回の自衛隊の「実力行使」に、私達は大きな危機感をもたざるを得ません。

「海上警備行動」は横須賀の自衛艦隊司令から発令されました。また自衛隊地方総監はこの件に関連して、新ガイドライン関連法の早期成立を強調する発言を行っています。本日の月例デモの参加者として、私たちは両者に対し抗議の文書を提出します。

不審船警備は保安庁の任務

海上保安白書によれば、日本領海内で確認されている「不審船」は、この5年間の平均では、1年間で454隻という数になります。こうした「不審船」に対し、海上保安庁は「当該行動の中止を要求し、あるいは警告の上退去させるなどの必要な措置を講じ」と白

書(99年版・73頁)は書きます。

日常的に行われているこうした「不審船」への対応と比較すると、今回の日本政府の対応には、政治的な意図を感じない訳にはいきません。巡視艇が攻撃された訳ではなく、確認されている違法性は、艦名の詐称と停船命令無視という今回の「不審船」に対し、自衛隊が出動すること自体が、明らかな過剰反応と言わざるをえません。人命や財産の保護のために「特別な必要がある場合」にのみ実施できる「海上警備行動」の要件すら満たしていないのです。

「深追いしない」ことの意味

保安庁の能力では、高速の「不審船」に対応できないからこそ自衛隊が出動するのだと、政府は説明しますが、ここに大きな落とし穴があります。

保安庁の「深追いしない」あるいは「力づくで押さえこまない」という対応は、起きた事態を、次のより深刻な段階に事態を持ち上げない賢明な選択なのです。今回の追跡でも、最終段階で船舶そのものへの砲撃をためらわせたのは、そのことによって新たな事態が生まれてしまうことへのおそれでした。このことの意味を冷静に考えてください。

自衛隊の実力行使は、起きた事態を、さらに抜きさしならぬ「脅威」へと拡大するだけです。問題の本質的な解決にはなんの貢献もしないことを、私達ははっきりと伝えたいと思

ます。

外交努力こそが解決の道

高速の「不審船」に、かってきまな行動をとられたままで良いのかという議論があるでしょう。私達も、そうした状況を放置したままでいいとは思っていません。しかし、それこそは、外交の仕事であるべきです。「不審船」が日本政府が言うように北朝鮮の所属だとすれば、北朝鮮と国交がないという現実を直視することに始まって、日本政府が外交レベルで取るべき手段はたくさんあるはずですよ。

今回、日本政府はウラジオストックの日本領事館を通じて、ロシア国境警備局太平洋地域管区司令部に「不審船」の追跡要請を行い、3隻のロシア警備艇が実際に出動しました。ロシアがソ連を名乗っていたころ、海上自衛隊の仮想敵はソ連の太平洋艦隊であったことを思い出してください。かつては仮想敵に位置したロシアの警備艇に政府は協力要請を行っているのです。このことが私達に教えているのは、「脅威」は政治が作り出しているという事実です。ここに軍事が割り込んで、どのような展望が描けるのでしょうか。

周辺事態法の条件作り

「不審船」を追尾した護衛艦隊所属の護衛艦「みょうこう」と「はるな」は、当初「たまたま訓練中で付近にいた」と説明されていました。しかし、実際には、22日の午後3時に舞鶴基地を、舞鶴地方隊の「あぶくま」とともに出港しています(3月27日・東京新聞)。統幕会議の情報本部のレーダー基地が「不審船」からの電波をつかんでの出動でした。保安庁と自衛隊による「追撃劇」が始まる前に、こうした準備時間があったことは、何を意味するのでしょうか。

早い段階から「不審船」の動きをつかんだ政府は、周辺事態法の成立するための環境整備のために、「不審船」を最大限に利用した、というのが私達の判断です。

実際、自衛隊の現場からも、この機をとらえた発言が続いています。たとえば坂部邦夫横須賀地方総監は「法案の早期成立と関連法の検証の必要性を強調」(神奈川新聞3・26)し、自民党内からも「関連法の成立を急ぐ必要がある」(山崎拓・衆院ガイドライン特別委員会委員長)と強硬発言が続いています。まさに政府にとっては「追風」(朝日・3・25)という状況が作られつつあります。

しかし、こうした「力による解決」が、より大きな脅威を作り出し、解決を遠ざけ、自衛官をより困難で危険な場所へ送り出すだけであることは、歴史的にも明らかになっていることです。だからこそ私達は、一切の軍事力を持たない生き方を選んだのです。

韓国の中央日報(3・25)は「冷静に対応し、軍備拡大をしないように望む」と書きました。金大中大統領はだからこそ、「太陽政策」としているのです。

自衛隊の軍事行動を許す訳にはいきません。

海上自衛隊自衛艦隊司令の「海上警備行動」の発令と、横須賀地方総監部の関連法案の成立発言に、かさねて抗議します。



3月28日地方総監に抗議文を手渡す。撮影:斉藤五月晴

沖繩から

沖繩がかわれば、アジア・太平洋がかわる

報告 38

「沖繩から」
「沖繩ボイス」
編集委員

伊波洋一
（沖縄県議会議員・元沖縄中
部地区労働局長）

〒901-22
沖縄県宜野湾市志真志517-1
沖繩県立平和センター気付
TEL 098(898)6628
FAX 098(897)6653
郵便振替 鹿児島2-11249

新ガイドライン関連法案である周辺事態措置法案と自衛隊法改正案、日米相互役割提供協定が四月二十七日に衆議院を通過し参議院に送られた。

全国各地でガイドライン関連法案に反対する動きはあるが、また全体的に大きな動きになっていない。テレビニュースのインタビューでも人々の多くが「周辺事態」がどういふものか判らないと答え、周辺事態法の衆院通過に関心がないと答えている。

「周辺事態」という曖昧な概念で自衛隊派遣や米軍後方支援の正当性を説明する

政府説明に多くの国民も納得しているわけではないようだ。不審船追跡報道や北朝鮮のミサイル発射などで煽られた不安感がガイドライン関連法案への抵抗感を薄めているかもしれない。しかし、その次に来る有事法制を含めて米軍への戦争協力で自衛隊や国民に求められる内容が明らかになれば、米軍への協力の是非が問われることになる。

周辺事態法案は、日米の軍事同盟関係を新たな段階を作り出すものだ。これまでは、沖縄と比べれば日本各地の米軍基地は従来の日米安保の枠の提供施設として、周辺住民に気を使いながら存在してきたように思われる。沖縄については、沖縄返還の際に日米間で米軍の基地自由使用が秘密合意されていると私は推測している。各地の低空飛行問題や厚木基地での夜間離発着訓練など一部の米軍訓練が地域住民に被害をもたらしているが、沖縄ほど恒常的に住民生活に重大な影響をもたらしている所はないだろう。

新ガイドライン関連法案の成立は、日本全体の沖縄化をもたらすだろう。すでに、全国各地の自衛隊演習場への米軍実弾砲撃訓練の移転では、同量同質という防衛施設局の事前の約束を全く反故にして、夜間訓練の強行など、米軍がやりたい放題の訓

練を何十億円もの私達の税金を使用して行っている。

周辺事態法案が成立すれば、「平時」と「有事」の間の曖昧な「周辺事態」概念が利用され全国各地で米軍の恒常的な準戦時体制が形づくられるかもしれない。沖縄がまさにそうであり、県民の生活を無視する恒常的な準戦時体制の維持のための演習や訓練が日常化している。米軍に対する沖縄県民と基地の重圧の少ない本土の違いが周辺事態法案に対する賛否にも表われている。

沖縄と本土の世論調査

四月三、四日の両日行われた共同通信社のガイドライン関連法案についての全国電話世論調査では、六六%が賛成(二一%)もしくはどちらかといえば賛成(四四・五%)と回答し、反対は二三%だった。巧みな世論作りに利用された日本海での北朝鮮工作船と見られると不審船による領海侵犯騒動の直後だったこともあり、高い賛成率である。賛成理由の「日本の安全のために必要」が一番多く三九・四%となっている。反対理由の第一は「戦争に巻き込まれる危険がある」となっている。

一方、沖縄では沖縄タイムスが四月二

三、二四日の両日、沖縄県内の約五百名にガイドライン関連法案に関する緊急電話意識調査をおこなった。新ガイドライン関連法案について、反対が五五%と過半数を超え、反対理由は「日本が戦争に巻き込まれる」が四二%で一番高く、次は「今以上に米軍に協力する必要なし」二六%、「憲法に違反する」二二%だった。賛成は二六%で、賛成理由の第一は「日米同盟関係維持に必要」(三六%)だった。米軍支援や民間協力の基本計画の国会承認についても、六八%が「事前承認」が必要と回答している。ガイドライン法案に対する沖縄と本土の世論の違い際立たせる調査結果になった。

関心度は「大いにある」「少しはある」を合わせて八二%と極めて高く、関心がないは一四%にすぎなかった。極めて高い関心度と反対が過半数を超えたのは、四月に入ってから、国会での論戦に加え、県内平和運動団体や労働、革新政党、市民団体によるガイドライン関連法案への反対運動が全国的に展開されたことや嘉手納基地での米軍バラシユート訓練の強行、普天間基地所属のCH53E大型ヘリの沖繩本島北部海岸近くでの墜落事故などで県民の関心が高まったことが上げられる。

米国の本音

国内では「だまぐらかし」の議論がなされて、国民も玄関の戸締りぐらゐの感覚で

周辺事態措置法案に賛成しているのかもしれないが、米国の国防関係者や安全保障関係者などの発言を聞くと米国の狙いが、自衛隊の海外派兵にあることがわかる。

四月二十九日の朝日新聞では、アーミテージ元国防次官補の「朝鮮半島で陸や空の自衛隊が米軍と一緒に戦うのは必ずしも得策ではないかもしれない。アジアの他の地域であれば別だ」との発言やアジア・太平洋地域の安保問題のシンクタンク、パシフィック・フォーラムのコツサ元空軍大佐の「朝鮮半島に陸上自衛隊を派遣するのは難しいだろう。だが、日本のF15戦闘機が、地上攻撃をする米軍のF16戦闘機の上空で空中哨戒する程度のことではやってほしい」という発言が紹介されている。

アマコスト元駐日大使ですら「朝鮮半島で多数の米軍の死傷者が予想されるような紛争が起これば、日本への期待は高まる」と見ていると紹介し、ガイドライン関連法案が成立しても、「終わりではなく、初めの一步に過ぎない」というが、米外交・安保関係者の共通した見方だとワシントン発の朝日新聞特集記事は伝えている。

四・二三ガイドライン反対県民大会

ガイドライン関連法案に反対する沖縄県内の動きは、四・二三ガイドライン反対県民大会の開催に向けての取り組みの中で高まっていったということがわかる。県議会開会中の三月初めの社民党県連、社会大衆党、共産党県委員会の三書記長をスタートに県議会野党会派、県内労働、市民団体を含めての県民大会開催に結びついたものであるが、中央においては同法案が衆院を通過する四月二十七日になって初めて土井社民党党首、不破共産党委員長そして土井共闘が一時的に実現したのと大きく違ってくる。沖縄ではローカルな社大党が接着力になって、社共が一日共闘を組みやすくなっている。

社民党と社大党が県議会でも同数(各六人)であることもあり、今回の事務局長を革新無所属議員会派の「結の会」(三人)の私が担当するよう要請された。ハーグ平和会議への準備で忙しいことを理由に断わったが、最終的に引き受けざるをえなくなり、私は、上記の三政党に加えて沖縄平和運動センター、統一連、市民運動連絡協議会、女性グループを代表して基地・軍隊を許さない行動する私たちの会などの準備

備会参加団体が事務局団体を構成することを条件に事務局局長を、三月中旬の準備会で大会実行委員会の事務局局長を引き受け

た。七つの主要団体が参加して事務局会議を何度か開催して県民参加型の県民大会の実現に向けての取り組んだ。大会規模を一万人に設定し、大会前の街頭宣伝活動やラジオスポット、チラシ、立看板、横断幕や経費分担など詳細をつめながら、大会を代表し、県内各種団体や県民へ参加を呼びかける表呼びかけ人に山内徳信前沖縄県出納長、中村文子一フット運動の会事務局局長、佐久川政一沖大教授、平良修牧師の四名にお願いし、三月三十一日に大会実行委員会結成総会を開催した。四月に入ると同時に各組織でも街頭宣伝を展開した。実行委員会としては、那覇市一番の街頭宣伝ポイントである県庁前のショッピングセンター広場で各政党、各団体が一緒に街頭宣伝行動を連日繰り返すことができたことは、提案して良かったと思っている。三政党と二平和運動組織が交代で街頭宣伝車を出して呼びかけ人代表と事務局団体組織が夕方約一時間の街頭宣伝を連日繰り返した。チラシは街頭の他に主に労働団体の職場に配られ、ラジオスポットは二つの地元ラジオ局から一週間毎日各七本の

経済を引き起こしたのも政府の専門家達だ、専門家だからといって正しいとは限らないと譲らなかつた。

公明党の白浜参議院幹事長への要請では、日本が戦争協力をする米国は今一番の戦争国家だとの指摘に対して、かつて英国もスペインも戦争国家だったと反論されたのには驚いた。民主党の参本岡議院議員会長は、八項目の修正要求を出していること、修正協議次第であり廃案には戻れないと述べた。

すべての要請先で、衆議院の公聴会が沖縄で開催されなかつたことを抗議し、参議院の公聴会はずいぶん沖縄で開催するよう要請した。四月二十七日の衆院本会議でガイドライン関連法案は可決されたが、三法案に賛成した自・自・公の中で公明党の沖縄選出議員が本会議を採決直前に退席したのは、県民大会の成功や県民世論の高まりによるものだろう。

コソボと運動する在沖米軍

ユーゴスラビアでのNATO軍の空爆開始で一段と米軍の活動が活発になっていく。嘉手納基地や普天間基地の周辺で米軍機の巡回訓練や離発着訓練が増えている。特に、普天間飛行場周辺では、地域の住

参加呼びかけを行った。

大会当日の四月十三日は風が強く薄曇りの冷たい日だったが、県内各地から続々と多くの県民が参加し、那覇市の与儀公園は八千名の参加者で久々に満杯状態になった。開会前のアトラクションでは五月にオランダのハーグ平和市民会議に参加する沖縄の若者たちが太鼓と踊りを披露し、若者たちはハーグで訴えたい思いを発言した。

大会では、代表呼びかけ人の他に、広く県民の声を網羅する立場から、県選出国会議員の国会報告、港湾の非核化で頑張っている大浜長照石垣市長や北部のヘリ基地反対協議会や新たなヘリ基地移設先として注目されている中部地域の与那城町・勝連町のヘリ基地に反対する住民運動団体、那覇軍港の移設に反対する浦添市民の会に発言をしてもらった。大会終了後のデモは、那覇市のメインストリートである国際通りを端から端までつなぐ長蛇のデモとなった。翌日の地元両紙とも県民大会の記事がカラー写真と五段貫きの見出しで一面トップ紙面を飾った。社会面も大きくページを割いて報道した。今回の県民大会は革新側にとつて県知事選挙敗北から初めてで、沖縄を取り巻く環境と県内各地での基地容認の動きなどもあつて参加者

宅地上空を飛行し離発着するヘリの訓練が激増している。従来は、一機種毎に訓練時間が分割され、例えば午前は最初C130輸送機、次にP3C対潜哨戒機の訓練、午後の最初がCH53大型ヘリ、次にCH46ヘリ、そして最後にAH1小型ジェット攻撃ヘリという具合だったが、現在は、同時に違う二、三機種が訓練するようになっており、ヘリや軍用機の飛行回数が格段に増えている。ヘリは市全域で爆音をまき散らしており、地域住民の住宅地の上空を飛ぶ間隔も短くなっている。

三月から四月にかけての普天間飛行場周辺での訓練の激増は、例年の演習準備に加えてユーゴ情勢にも備える訓練だと思われる。空爆開始以来、在沖米軍基地の警備体制が強化され、基地内への出入りが厳しくチェックされるようになった。一般兵の外出も厳しくチェックされているらしい。住民への直接的な影響としては、四月は沖縄では中国から伝わった清明祭の月宜野湾市では四月一八日が清明祭の日だった。沖縄のほとんどの地域で清明祭の日に家族・親族が揃って先祖のお墓まいりをするので、普天間飛行場でも、従来は三つの主要ゲートが解放され、地域住民が基地内の墓地に簡単に行けるように設けられた特別なゲートも解放されていた。しか

数に不安もあつたが、革新勢力にとつて久々に県民大会らしい集会とデモになった。

東京行動を実施

大会で採択した県民アピールを県知事や総理官邸、衆・参両議長、ならびに各政党会派に手交し、ガイドライン関連法案の廃案を訴えるために、翌十四日に県庁で石川副知事に大会事務局団体で手交し、東京行動も四月二一日出発で二二日に団長の山内徳信さんと各事務局団体代表七名の代表団で十箇所の要請行動を行った。官邸で鈴木官房副長官、国会内で伊藤衆議院議長や不破共産党委員長、議員会館で土井社民党党首の他、参議院議長、他の各政党と会派に要請行動を行った。土井たか子さんは国会を取り巻く雰囲気不気味に静か一方で反対運動も盛り上がりながら政府が国民の知らぬまにその方向を変えようとしていると話した。

鈴木副官房長官はめざすものは同じ平和で一緒だと主張し、山内団長は憲法を否定するものだと制限時間を超えての激論になった。鈴木官房長官が内閣法制局で専門家がチェックしているので憲法に違反していないと言え、山内団長はバブル

し、今年是在沖米軍基地全体がスラブ系によるテロ活動などに対する警戒が強化され、通行できるゲートがメインゲート一つだけに制限されただけでなく、氏名や車の番号などを事前に届けなくてはならなくなつた。

沖縄の米軍基地は常に世界各地の紛争と連動して動いていることを示している。

米軍演習とヘリ墜落

米軍主導のNATO軍によるユーゴスラビア空爆開始で在沖米軍の訓練や演習も強化されている。三月に明らかになった嘉手納基地でのパラシュート降下訓練は、嘉手納町議会や県議会の反対決議など県民の反発で一時的に止まったが、四月一六日になって突然、翌日の一七日の午前六時から午前九時の日程で嘉手納基地でのパラシュート降下訓練の実施を通告し、在沖米陸軍特殊部隊(グリーンベラー)などが十七日午前、嘉手納飛行場でパラシュート降下訓練を行った。小雨が降る中をMC130特殊作戦機三機から六回にわたり、計百人が降下した。

読谷補助飛行場で行われていたパラシュート降下訓練は、SACO合意によつて伊江島で実施することになったお

り、四月八日には伊江島でパラシュート降下訓練が実施されたばかりだった。嘉手納町議会と北谷町議会は一九日に議案を開き、パラシュート降下訓練に対する抗議決議を全会一致で採択した。沖縄市でも二〇日に抗議決議を可決した。沖縄県議会も四月二十七日に抗議決議を全会一致で採択した。

パラシュート降下訓練の二日後の四月十九日夜、沖縄本島北部の東海域で夜間洋上訓練の飛行中のCH53E型ヘリが墜落し、三名が死亡し一人が行方不明になった。後日行方不明の一人も遺体になって発見された。

普天間飛行場では午後十一時ごろまでCH53E型が着陸するようになっていたが、今回の墜落事故で普天間飛行場の大型ヘリが北部海上で夜間飛行訓練を繰り返していたことが明らかになった。

翌二十日には、在沖米軍司令部前で平和運動センターと中部地区労抗議が集会を開催した。国頭村議会や宜野湾市議会で全会一致で抗議決議が採択された。県議会で二七日の本会議で全会一致で採択された。米軍の演習が強化されると墜落事故がよく起きるようになる。住宅地などでの墜落事故が起きないことを願っている。

に追突され引き殺された女子高校生の事件を通して、沖縄基地についての疑問を持ち勉強会を繰り返してきた。ハーグでは、ユースプログラムに参加すると共に全体会場でも沖縄から持ち込む太鼓や三味線で歌と踊りと沖縄の若者からのメッセージを披露する。女性たちは、米国や韓国、フィリピンの女性達とともにワークショップを準備している。前沖縄県知事の大田昌秀氏もゲストとして参加する。

私たちは、平和の礎(いしじ)のパネル展示の他、ブースを三つ借りているので沖縄の米軍基地を訴える場にしたと考えている。沖縄からの参加者でハーグ平和アピール沖縄連絡会を結成して準備している。若者たちの旅費の負担を軽減するためにカンパも取り組んでいる。

沖縄の動きについて、報告できなかつたものが多いが次号で報告したい。

基地移設に反対する動き

普天間基地の県内移設で誘致先として名乗りを挙げた地域で、反対運動が進展している。本島中部のホワイトビーチのある勝連町と隣接する与那城町では「ヘリ基地をつくらざない与勝の会」が三月一日に発足して反対運動を展開しているが、勝連町議会が四月七日の臨時議会で沖縄市などの地元財界が提唱している与勝半島埋立による普天間基地の代替ヘリ基地建設案に反対する決議を賛成多数で可決した。さらに、同町の離島である津堅島でのヘリ基地誘致運動に対して三月二十一日に勝連町のシビックセンターで「ヘリ基地に反対し、島を守るチキンチュウの会」結成集会が開かれ、津堅島の在住者と出身者を会員とする規約などを確認し、宮城貞夫代表他五人の代表を選出した。島住民代表が「津堅は豊かな島です。ヘリ基地は必要ありません。平和な島をまもるために協力していきましょう」と決意表明をおこなった。

基地ができるターゲットになる。何が何でも基地を作らせてはいけない」と挨拶した。四月五日にチキンチュウの会は、津堅島へのヘリ基地誘致に反対する決議要請を勝連町役場で蔵当真徳町長に津堅島住民の約七割に当たる約三百人の署名と津堅島出身者約一千二百名文の署名と共に手渡した。津堅住民の反対する意思を受けて、蔵当真徳町長は四月二十一日に県庁を訪ね親川知事公室長に勝連町へのヘリ基地移設に反対し、その可能性に否定するよう申し入れた。

降って湧いたようなヘリ基地誘致運動に対抗してヘリ基地移設に反対する住民をまとめて町長や町議会に反対を堅持させた運動の根底には沖縄県民の平和志向が大きく作用しているだろう。

ハーグ市民平和会議

今月の十一日から十五日までの五日間、オランダのハーグで行われるハーグ市民平和会議に沖縄から二十四名が参加する。若者たち(十名)と基地軍隊を許さない行動する女たちの会の女性たちが主なメンバーであるが、若者たちは、昨年十月にオートバイの運転中に米兵の運転する車

沖縄から●特別篇

国政美恵(かまどうくあゐの会・宜野湾市在住)

沖縄も神奈川も

地元でがんばって、それを

繋いでいけたらいい

沖縄交流キャンペーン99神奈川集会(3月6日・横浜。主催：意見広告の会)でのお話。テープ起こし：田巻一彦

なぜ「かまどうくあゐの会」を作ったのか…

こんばんは。沖縄の普天間基地がある町、宜野湾から来ました。一九九七年の十一月、名護市で海上ヘリ基地の賛否を問う住民投票がおこなわれました。名護の人々の苦しい状況を新聞などで知るたびに、もう一方

の当事者であるはずの宜野湾市民として、何かやるべきことがあるんじゃないかと思っていました。普天間基地の現状を、そこで暮らしているものとして名護の人たちに伝えて、こんな米軍基地を受け入れていいのか判断の材料にしてほしいと思っていました。私は市民運動なんてほとんどやったことがなかったので、何から、どうやってやっていくのかまったく解らな

い。それでも、何か自分にやることがあるんじゃないかというビラを配ったから、それに賛同してくれる人たちが、女性だけ、十代から五十代までの十五人集まりました。ほんとに初めて顔を合わせる人たちで、とても最初は緊張していたんですけど、はなしているうちに、長いことつきあってきた友達のようにすこくうちとけて、ああ価値観が一緒だとすぐに仲良くなれるんだなあってうれしかった。

隣の市町村の人たち、那覇市とか浦添市とか西原町の人たちも何人かいました。

宜野湾市の私たちの目の前からフェンスがなくなっても、同じ沖繩のどこかに新しく基地を造るんだったら何の解決にもならないし、滑走路もつぎはぎだらけで五年後には使えなくなってしまうような古い基地である普天間を返すかわりに、新しい基地を造るというのなら、それからまた五〇年間基地を抱えてしまう、って思ったんですね。私の住んでいる町から基地がなくなるのはうれいけれど、沖繩から基地を無くすには、たとえ普天間基地がすぐに動かなくても、新しい基地を作

湾に行つて普天間基地の返還運動をやるからね」って。これを聞いた時は本当にうれしかった。

日本政府のやり方にははいつも腹が立つけれども、でもそのおかげで、名護の方たちと知り合えたのは、ある意味ではよかったです。自分も強くなれたので、悪いことばかりではなかったと思つています。名護の海上へり基地は反対運動の結果、宙に浮いた状態になつていのはご存じのとおりです。ずっと運動をつづけていきたいと思つております。

基地がそんなに大事だというのなら誰か買ってくれないか、って

去年の五月には、東京や神奈川の方たちにもお世話になりながら、銀座で「道じゅねー」を成功することができました。それを主催した「心に届け女たちの声ネットワーク」の代表の真志喜トミさんという方がいて、名護市民としてずっと反対してきて、さつき紹介した「今度は普天間基地の返還運動をやるからね」と言ってくれたその人なんですけど、そのとみさんが、銀座の町を

らせないことが近道だと。

私たちに何ができるかわからない、でも動いてみようということでは代表とか会則とかはないけれど会を発足することにしました。

会の名前は「かまどうぐあたちの集い」にしました。かまどうぐあというのには、たまたまよびかけに集まつてくれたのが女性ばかりだったのでそうしたんですが、今八〇代九〇代くらいの方たちに沢山つけられた女の子の名前です。ヤマト風に言えば「はる子ちゃん」とか、そんな感じ。かわいい名前です。県外の人に伝えるのは結構難しいんですけど。

名護に行つて

宜野湾に住んでいて、ヘリコプターの騒音がうるさいとか、排気ガスが臭いとか、落ちてくるんじゃないかと不安に思うとか、そういう不満を生活者として「声こえkoe」というビラにして名護市に行つて、戸別訪問しました。名護には友達もいないので、ドアをノックして。女性が出てくると色々お話できるんですが、男性というのは、私

タライの中に普天間基地に見立てたフェンスを入れたデコレーションを頭の上に乗せて、行商するように、「基地はいらんかねえ」と歩いてくれたのを見て、宜野湾市民としてホントに胸が熱くなりました。

普天間基地を売りにしたのは、沖繩では賛否両論あつて、自分たちにはらないものをよそに押しつけるというはよくないんじゃないか、とか、軍隊をたらい回しにするのは軍隊を認めることになるんじゃないかと色々あります。でも宜野湾の私たちとしては、五〇何年基地を抱えてきて、私たちがいら

ない、でもどこかの誰かが基地は必要なものだと言ったんだから、買えるはずだと思つたんでね。なら買ってほしいと思つた。私たちが、いらない。だけど、長いこと反対運動をやっているうちに大切な時間とか大切なお金を沢山つぎ込んでいるので、ただで上げるわけにはいかないですね。基地の売上げ金を私たちの町づくりのための資金として使いたいので、とにかく安くするから買ってちょうだい、という気持ちで売りにました。

でも、誰も「私が買います」って手を

たちが「普天間から来ました」というのもうドアを閉めようとしたり、頭が固いのか、とても緊張しましたね。こうやって週末に毎週通っているうちに、基地建設に反対している名護市民の人たちとも知り合になれました。そこもまた女性たちが危機感を持つて一所懸命活動してました。

その女性たちと一緒に「道じゅねー」のことやなんかを相談しているとき、ホントに同じ思いで集まった人と会えてよかったなあ、一歩前に出ればこんなに沢山新しい出会いがあるんだとともうれしく思いました。そんな中で知り合った人の一人がこんなことを話してくれたんです。「今まで普天間基地のこととか、同じ沖繩なのに考えたことがなかったけれども、自分のところに来るかも知れないということになつて、ホントにいやだ、米軍基地なんか来たらいやだと思つて、普天間基地の勉強をしなければ。そして知れば知るほど、自分の町にはいらないうつて。そうすると、今抱えている宜野湾市民もいやだろなあと思つた。これはほつとくわけにはいかない。自分たちの住民投票が終わつたら、今度は私たちが宜野

あげてくれない。だつたらいらんのかと思うと、そうも言わない。必要なら買えるはずだと思つたんでね。何で買えないのかを銀座を歩く人たちに考えてほしかったのです。三日間売り歩いたんですけど、まだ買手が見つからないまま、普天間基地は宜野湾市にあります。

宜野湾の音を持つてきたので、聞いてみてください。そしてもし買つてもいいと思われらしたら、私に声をかけてください(笑い)。(ここでテープでヘリコプターの騒音が場内に流す)

これ、意外に静かだなと思つた人もいるかもしれません。でもこんなもんじゃないんです。うるさいのも問題ですけど、これがずーっと朝からつづくんです。一日に一回とかいうんじゃない、いつでもどこかでバタバタバタと音がしてる。飛ばなくてもエンジン調整やらで、音はずっとしているんです。天気の良いときは一日とか二日とか訓練をしない時があるんですけど、その後れをとりもどすように、三日目は雲の下を低空で飛んだり、エンジンテストをしたりともうるさくなるんです。そういう時は音が雲に反射

するらしくて、地面からも音が聞こえてくるんです。心臓が直接震える位に、低周波っていうらしいですけど。家の中にも音がけげんなく空気がある所はどこでも振動して、お年寄りや赤ちゃんや体の悪い人にはとてもつらい思いをしています。これがもう五〇何年もつづいています。

普天間基地は、このように音があるので、ある意味でわかりやすく反対運動もやりやすいのですが、危険だからうるさいからいやだ、というだけじゃない。弾薬庫とか通信基地とかは静かで、あまり出入りもないような基地ですけど、それは静かだからいいのか、という話ではない。戦争につながるものだから、弾薬庫でも通信基地でも私はいらないと思っています。

戦争の傷跡は心から消えない…母のこと

沖縄は五年前に大きな戦争に巻き込まれました。日本の国の一部だということでも沢山の日本兵が沖縄にやってきました。私の母はそのとき十五歳で、もろに戦争の被害を受けました。浦添

んな人に出会います。わたしもそのおかげでこうやって神奈川にまで呼んでいただいて、出逢えるというのがとてもうれしいなあと思います。いろんな人たちに会っていると、ミサイルが飛んでくると怖いからやっぱり軍隊は必要だとか、沖縄はアメリカに守ってもらっているんだから、アメリカ軍がなくなったら、小さな沖縄はあぶないんじゃないか、とか。北朝鮮とかどこかから来るんじゃないか、だから基地はあつたほうがいい、と言われたりもします。だけど、ミサイルは沖縄に基地があるから飛んでくるんだと思うんですね。基地がなければ飛んでこないはずなんです。それに、ミサイルが飛んでこないようなつきあい方をしていくべきだと思います。戦争に巻き込まれないように、知恵を出し合っていた方が安心して暮らせるし。武力で解決しようなんてとても安易な考え方だと思えます。とても簡単に考えているんじゃないか。

沖縄は武器を持たなかったから薩摩に侵略されたとか、戦争に巻き込まれていてとか、いろいろ言われます。で

というところに住んでいたんですけれど、そこを出て家族で二ヶ月間、壕を転々としながら逃げて行きました。しかも学校では兵隊さんは沖縄を守るためにやって来たんだって教えられたので、食糧とか寝るところとかを提供していくんですね。米軍が来るまでは日本の兵隊さんとはとても優しかったそうです。沖縄の人たちも頼るし、日本兵もある意味で余裕があったのでわきあいあいとやっていたそうです。でも、四月一日に米軍が上陸して沖縄が戦場になったら、これまで優しくした兵隊がとても怖い存在になったそうです。母たちは入っていた壕を追い出されて、大切に蓄えていた食糧も奪われて、煙節をかじったり黒砂糖をなめたりしてくらしていく。住民を守ってくれるはずの兵隊、軍隊が守ったものは何だったんだらう、って私は沖縄戦を思うといつも考えてしまいます。

戦場になる前に、学校にも行かないで母たちが石を運んで作った飛行場が、今、嘉手納や伊江島や読谷の基地になっています。日本軍の基地があったから、米軍は最初にそこを攻めるし、未だに戦争をひきづって基地はありつづ

も戦争に巻き込まれても米軍の統治下におかれても、沖縄の方向性を正しく判断して声をあげつづけてくれた先輩たちが沢山います。その時代その時代にきちんと健全な考え方をしてきた先輩たちを私は知っているし本で読んでいます。だから私は沖縄を好きで誇りに思っています。ゆずれない、ゆずれない、それだけはゆずれないということ、勇気を持って守っていくことを信念として持ち続けたいと思っています。

私たちが新しい基地を絶対に作らせないことが、私たちの後輩たちが沖縄をずっと好きでいられることにつながるんだらうと思います。

知事選のこと

去年の十一月十五日に沖縄では知事選の投票がありました。結果はご存じのとおり大田さんを当選させることができました。とても残念でした。正直言って気が抜けてしまっ、シヨックを今でもひきづっているような気がします。けど、なんとかがんばっていききたいと思っています。けども、大田

けています。親とか子どもとか恋人とかを奪った戦争のことを一番忘れないのは沖縄の人たちだと思ふのに、それを忘れさせない。基地がいつも目の前にあるんです。

母は二ヶ月間逃げながら、今まで一緒にとなりについて話していたひとが突然暴風に当たって死ぬのを見て、次は自分か、と思いがらいるんですけれど、どうせ死ぬのなら自分の家で死にたいと思つて、魔文仁の方まで行つたのが、浦添の家にもどろうとした時に捕虜になつて母の戦争は終わります。捕虜になつたから助かつたんだと言っています。

私たちは家族でよくキャンプに行ったりするんですけど、母は誘っても一度も参加しません。五年前にたくさん石の上で眠ったから、もう外では寝たくない、っていうんですね。家の中で眠れることはとっても幸せなことなんだって…。

沖縄を好きだし先輩たちを誇りに思うから

基地に反対しているとホントにいろ

さんがいたから私たちは基地に反対したわけではなくて、私たちが反対しているのを大田さんは代弁して、政府に言ってくれていたんだと思うんですね。大田さんが知事じゃなくなつてしまつたからと言つて私たちが方向を見失うんではなくて、大田さんも一人の県民としてやっていると聞いているので、私は仲間が、強い味方が一人増えたのだと思っています。

知事選の投票日の前日、私たちは大田さんを応援するために那覇市の国際通りで「道じゅねー」をしました。相手側も盛り上がりつついて、異様なムードでした。国際通りの中でも一番にぎやかなむつみ橋という交差点にさしかかった時に、稲嶺さんの街頭演説をしていて、腕章をした運動員の人が、私たちの先頭の車のボンネットにうあつとのしかかってくるんです。マイクを止めろとか解散しろとかじゃまをするなとか、いろいろ、凄く怒って怒鳴っていました。私は横断幕を持って先頭の車の後ろにいたので、それを少し離れたところで見ました。私たちはじゃまをするつもりはないので、ポリウエムを落として、道じゅねを続けたんで

すけど、とても哀しかった。私たちも彼らも沖繩が好きで、沖繩に住みつづけたいと思ってるのに、喧嘩をさせられてる。戦わされてる。本来は敵ではないのに戦わされてる。うまく言えないんですけど、見えないものに戦わされている、そんな感じがしてとてもさびしい思いをしました。

戦う相手を間違わないようにやっていきたいと思っています。今稲嶺さんが県政をやっていますけど、私たちの声を大きくして無視できないようにして、稲嶺さんを私たちの側にして、私たちの方向に向くような県政をして欲しいと思っています。

選挙の結果が出たのは夜中の十二時頃でした。いろんな人から電話がかかってきました。みんな眠れないんですね、ショックで。どうせ家にいても眠れないなら、みんなまでドライブしよう、と言って、夜中の一時頃に普天間基地のゲート前にビール持って集まって、くやしいこととか、反省することとか、これからのことを話あって四時頃までそうしていました。それでふっきれたつもりだったのが、一人になるとまたとても寂しい思いがこみ上げてくる。

間基地いらないよね。だから署名して」というのはとても言いにくいんですね。だからつけんじまの人たちのことを責めることはできない。でもそのまま放っておくこともできないので。一年半前に名護に通った時のように、またつけんじまに通って、お友達を作って、少しづつ話をしていきたいなと思っています。

本当に地元で自分の立場を明らかにする難しさというのは、動いてみて初めてわかったことでした。誤解を恐れずに言うんですけど、今沖繩には県外からたくさんの人たちが来ています。一年、二年とアルバイトをしながら、「沖繩問題」の解決を手伝うんだと、たくさんの方が来ています。でも、「沖繩問題」って言うのと「沖繩」の「問題」という風に受けとめられて、多分よそから見ると「自分の問題じゃない」と受けとめられるのかもしれない。だけど、これは日本全体の問題だと思っただけで、これは日本全体の問題だと思っただけで、沖繩に住んでいたらって基地問題に何の関心もない人たちがいる。その人たちに、どんな風に話してどんな風に振上げていくのかは私の責任だと思っただけで、沖繩に住んでいる私は沖繩

沖繩ではそんなことはないんですけど、全国的には沖繩県民は県内移設を容認したから稲嶺さんが当選した、みたいな報道がされていたこともあって、いろんな新聞を読んでいたから、生きていくのってめんどくさいな、とか、こんな風に活動するのって疲れるなあとか思っただけでもあったんですね。で、そんなことを仲間に話したら、ホントだよな難儀だよなあって。でも、私たちが疲れて辞めるのを政府は待ってるんだよね、って言われたんですね。それが政府の思うつぼなんだから、それにはまっちゃだめなんだよなあって。だから、今やっぱりがんばんなくちゃと思っっています。

大田さんは前よく話してました。沖繩には「あきらめる余裕」なんてないんだって。

「地元」で運動するって難しい

昨日飛行機の中で沖繩の新聞を読んでいたから、っていう小さな島のことの記事になっていました。本島から四キロほど離れた島です。そこは沖繩のこ

の人を担当するので、東京に住んでいる人は、まわりの人たちに伝えて、とても難しいことでしょうけど、振上げていって、神奈川の人たちは神奈川で……という具合にやっていけたらいい。

だからと言って沖繩をほっといてということではないんです。もちろん沖繩のことは日本全国みんなの問題として忘れないでいてほしい、でもだからといってみんなが沖繩にかたまっちゃたら、沖繩だけで孤立しちゃうんじゃないかと心配になってしまっただけです。横浜は横浜で遠くから沖繩を見ていてくれて、離れていなければ見えないことがあると思うので、そういうことを教えてほしいと思うんです。私たちが遠くから、「横須賀の市長は大丈夫かな……」とか思いながら見えていますから。そんな風に結びつけたらいいなと思っっています。

うまく言えないですけど、わかってくれたらうれしいです。

「戦争のエネルギー」には負けたくない

とばで「島ちゃび」と言って、離島苦という悩みを抱えている島です。その津堅島でヘリポートを誘致しようという動きが始まっています。昨日のニュースでもやっていますけど、有権者四九二人中四〇二人の署名を持って、ヘリポートの誘致を県庁に陳情に行ったとのこと。それを見て、とてもショックなんですけど、小さな島で生活していると、隣りの人から「これに書いて」って署名を渡されると、基地に反対でも署名を断ることはできないですよな。隣り近所、親戚に囲まれて暮らしますから。それで九〇パーセントも署名が集まってしまう。

考えていないとか、そういうことではなくて、とりあえずは名前を書いてと言われて書いてしまった、ということだろうと思うんです。

私は、名護にも東京にも、そして去年の十月にはアメリカにも行っていろんな人と会って話をしましたけど、自分の地元じゃないところで話をするのはとっても簡単なんですね。自分の言いたいことを何でも言える。でも、同じ宜野湾の隣の人、今まで基地のことなんか話したことがなかった人に「普天

先月の後半に日出生台で沖繩の一〇四号線越え演習が移転して行われました。これで、本土五ヶ所を一巡したとのこと。その演習を終えた海兵隊が沖繩に戻ってきました。兵隊たちのうち二〇人くらいは民間の飛行機でかえって来ています。戦車やモロモロの備品は民間の船でかえってきました。

こんなことも最初はいろいろ問題になるのですが、繰り返していくうちに麻痺していったって、反対運動も小さくなっていったって……きつと日本政府もアメリカ政府もそれを狙っているんだらうなあとと思うので、疲れないで、エネルギーを持ちつづけていきたいと思っっています。

ガイドラインが沖繩でも大きく報道されていますが、沖繩はずっと前から道路は使われるし、さまざまなかやられているので「今さら」っていう感じもあるのですが、全国の民間の病院とか港とか空港が使われるようになっていくと、沖繩は違う意味で怖い。米軍は今までは沖繩の施設を大切に使用していたと思うんですけど、日本各地どこでも使えるようになると、沖繩の基地を安心して壊していける、破壊するの

ブックレット2冊

ピースネットニュース刊
 田巻一彦（キャッチピース）著
 300円
 問合せ：03-3813-6490 ピースネット
 peacenet@jca.ax.apc.org



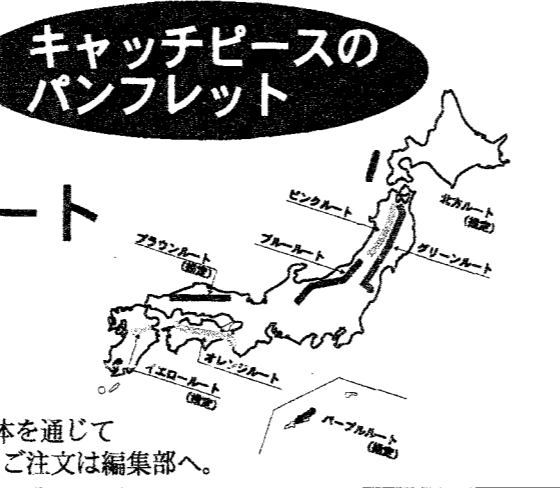
岩波ブックレット
 新ガイドラインを考える会編
 440円
 <執筆>新倉裕史・前田哲男・呉東正彦・福島瑞穂他
 全国書店にて販売中

131自治体から生々しい証言

米軍機低空飛行 全国自治体アンケート

●アンケート解説
 ●資料 全回答・航路地図・意見書・新聞記事・参考資料

カンパ●1部 1500円（会員もしくは会員団体を通じてのご注文の場合は1200円。いずれも送料別）。ご注文は編集部へ。



も訓練の一つにされていくんじゃないかと心配です。そんなことをさせるんでしようか、っていうことを沖縄からの声として訴えたいと思います。

今日、本日は米軍は嘉手納基地でパラシュート訓練をする予定でした。沖縄のいろんな団体が反対して、稲嶺さんも反対して、野中さんにも伝えて、そのおかげで「延期」をすることにしました。「中止」ではなく「延期」ですから近い内にまたやるということなんです。が、とても対応が早くて、かえって何かウラがありそうな気がします。パフォーマンスのような感じで。でもとりあえず、反対したことで演習が見送られた。こういうことを一つ一つ積み重ねていくしかないんだろうな、と考えています。

去年の十月に二週間アメリカに行かせてもらいました。そこでサンディエゴの海軍基地の視察があり、遊覧船で見てまわりました。太平洋側の最大の海軍基地です。港を回っていくと、最初は使われていない桟橋とかがつづいたのですが、突然軍艦が目の前にどんと現れてびっくりしている間もなく、行っても行っても軍艦が出て来るんで

す。数え切れないほど。六〇とか八〇とか後で聞きました。ホントに気分が悪くなるくらいの軍艦。こんなに戦争の準備をしているんだから、ホントに戦争は起こってしまうな、と実感しました。沖縄にいても、戦争なんて起こらないじゃないかと思ったりするんですが、そんな甘い考えでいたら、戦争の準備をしている人たちのエネルギーに押されてしまう。あれだけ準備しているんだから使わなければ、トマホークだって使って循環させなければ経済もなりたたない。サンディエゴで遊覧船と一緒にのついでに退役軍人の人たちは、孫たちに「おじいちゃん、あの船にのついでにいたんだ」と、とても誇らしげに話していました。子どもたちも軍艦の上の人と手を振り合っている。戦争することにとっても誇りを持っている、それが怖かったです。

そういうエネルギーに負けないためにも、もっと真剣にやらなきゃだめなんだなあ、つかれるなあと思えました。でも、ヤルからには楽しくやりたいとも思っています。

今沖縄では那覇軍港を浦添に移そうという動きがあつて、浦添も受け入れ

るような雰囲気です。これまではなかなか反対の声が起こりませんでした。それが心配だったんですけど、最近になって反対する市民の会が出来て、運動が始まっています。津堅島のとりの与勝というところがあつて、今でもハワイトビーチと言つて軍艦が来るところです。そこにヘリポートを誘致しようという議員がいましたけど、ここではすぐに反対運動が起こつて今燃えています。浦添もそこに触発されて燃えているんです。こんな風にして、みんなが反対できたらいいと思つています。

遠くから見ていると、沖縄もよくわからないと思ふんですね。基地に反対するかと思えば稲嶺さんを当選させたりで、それ以外はほとんど報道されないんじゃないかと思ふます。今日出逢えた方たちの中で、一人でも多くの人をつかまえて情報交換していけたら、またそこから話が始まっていくなじゃないかと思つています。

うまく言えないんですけど、これが私の感じていることです。きいてくださつてありがとうございます。◆◆

5.29市民フォーラム会場 東京港芝浦 サービスセンター

港区海岸3-25-1

JR田町駅芝浦口下車・徒歩20分

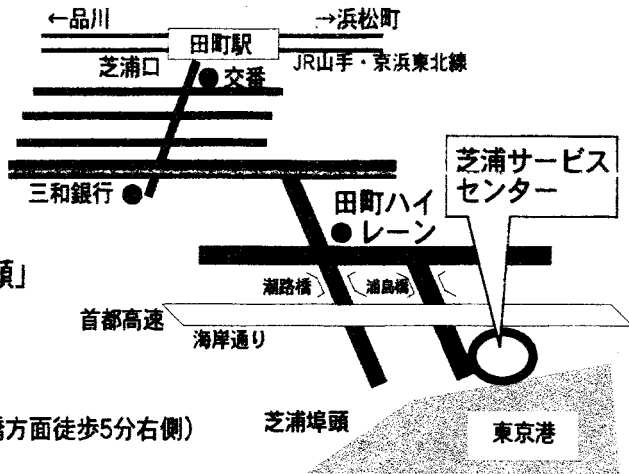
新橋から「ゆりかもめ」で「芝浦埠頭」

下車1分

TEL 03-5443-6760

宿泊：東京海員会館（浜松町駅から竹芝桟橋方面徒歩5分右側）

TEL 03-3433-5688



会計報告

(99.1.22~4.30)

[収入]

○前月からの繰越し	572,710
○今月の収入	297,129
会費収入	280,000
(内訳) 維持団体	24,000
維持個人	58,000
参加団体	24,000
参加個人	30,000
通信会員	144,000
カンパ収入	17,000
預金利子	129
資料収入	0
運動収入	0

[支出]

●今月の支出	233,597
事務所代 (3.4.5月分)	120,000
水道光熱費	14,328
電話FAX費	8,284
郵送費	27,460
文具・備品	1,997
印刷・コピー代	42,158
振り込み手数料	5,370
分担・参加費 (意見広告)	4,000
雑費	10,000
●次月への繰越し	636,242

原子力艦 入港情報

(109)

1999.3.20~4.26

S = 原子力潜水艦 (原潜) スタージョン級

L = 原子力潜水艦 (原潜) ロサンゼルス級

B F = 原子力潜水艦 (原潜) ベンジャミン・フランクリン級

精須賀	なし
横須賀累計 (うち原潜)	3 (3)
佐世保	なし
佐世保累計 (うち原潜)	1 (1)

初回ビーチ (沖縄・那覇町)

◆ 4/21 08:42	原潜ホノルル (L) 入港。
◇ 4/24 16:00	原潜ホノルル (L) 出港。
初回ビーチ累計 (うち原潜)	1 (1)

●1999.1.1から4.26までの各地の原子力艦入港数： () 内は原潜

精須賀	3 (3)
佐世保	1 (1)
初回ビーチ	1 (1)
合計	5 (5)

編集室から●
情けない話だけど、周辺事態法案が衆議院を通過した日も国会にはかけつけることができなんだ。なんだかしらないけど、仕事、仕事の毎日なのである。なんとか全国会議の広報だけと連休中に仕上げたのがこの号。連休前半は版下作り、四日は印刷と封筒詰め、とこれまた仕事の毎日なのであった。はあ。とにかく、全国会議で会いましょう。(た)

発行●脱軍備ネットワークキャッチピース 連絡事務所●〒222 横浜市港北区錦ヶ丘10-4 ハイツ幸1-B ☎・FAX 045(433)3483 E-MAIL: tamaki@ab.mbn.or.jp 編集●月刊キャッチピース編集委員会 郵便振替●00160-7-136148キャッチピース 定価●100円 (通信会員年間3000円)